



「こわいをして、へいわがわかった」

沖縄市立山内小学校2年 徳本 穂菜

びじゅつかんへお出かけ
おじいちゃんや おばあちゃんも いっしょに
みんなでお出かけ うれしいな

こわくてかなしい絵だった たくさんの人がしんでいた
小さな赤ちゃんやおかあさん

風ぐるまや チョウチョの絵もあったけど とてもかなしい絵だった

おかあさんが、七十七年前のおきなわの絵だと言った
ほんとうにあったことなのだ

たくさんの人たちがしんでいて ガイコツもあった
わたしとおなじ年の子どもが かなしそうに見ている

こわいよ かなしいよ かわいそうだよ
せんそうのはんたいはなに? へいわ? へいわってなに?

きゅうにこわくなって おかあさんにくっついた
あたたかくてほっとした これがへいわなのかな

おねえちゃんとけんかした
おかあさんは、二人の話を聞いてくれた そして仲なおり これがへいわなのかな

せんそうがこわいから へいわをつかみたいから ずっとポケットにいれてもっておく
ぜったいおとさないように なくさないように わすれないように
こわいをして、へいわがわかった

平和について考える

上記の詩は、「沖縄慰霊の日」の6月23日に沖縄県糸満市の平和記念公園で催された「沖縄戦没者追悼式」で読まれた、徳本穂菜さんの詩です。

穂菜さんは、沖縄のある美術館に展示してある「沖縄戦の図」を見て、あまりの怖さに足がすくみ、その時に感じたことをこの詩に表したのです。子どもらしい感性で、戦争の恐さ、そして平和の尊さについて考えさせられます。

「広島、長崎の平和記念公園」「沖縄ひめゆりの塔」「知覧特攻平和会館」「大津島回天記念館」等……。全国に平和について考えさせられる場所がたくさんあります。できればそのような場所で、子どもと一緒に平和について考えてみませんか。これからの平和な世の中を築いていくのは子どもたちです。戦争の怖さと平和の尊さについて考える機会をもつことはとても有意義なことだと思います。

今、ウクライナでは戦争が続いています。ウクライナ以外にもこの地球上には紛争地がたくさんあります。平和になることを祈るばかりです。

